

がくじ



摂南大学図書館報

No. 43

1995.10

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや—

*題字は王羲之の書による

大学図書館と「自分の図書館」

国際言語文化学部教授

なが ぬま ちゅうべ え
長 沼 忠兵衛

図書館はコンピュータの導入によって新しい時代を画したといつてよい。摂大図書館においても、私たちは館所蔵の本の情報を、端末機を使って、たちどころに得ることができる。それだけでなく、所蔵していない本の情報でさえ、NACSIS-IRなどの利用によって、その所在やそれ以上の情報を得ることも可能になっている。このような現在から将来の図書館について考えると、第一に、本あるいは必要文献の入手はますます便利になっていくという楽観がおこるが、他方で、本のない図書館出現の可能性にも思いをはせざるをえない。

ところで本のない図書館出現の可能性のもつ問題を考えるとき、そこでは誰のための図書館かという図書館の性格も考えねばならぬ。専門的な資料を端末機によってでも、これを必要に応じて出来るだけ速く正確に提供する機能をもたせた図書館が、いわゆる専門図書館といわれるものであるとすれば、大学図書館は、研究機関としてはそれとある部分は重なりつつも、教育機関という面もあるのであるから、そこには別の考慮も必要である。

いま、ある学生が、或いは自分の内に新しい問題をもって、或いは友人間での話題

を契機として、或いは先生や先輩に勧められて、本を図書館に借りに来たと仮定しよう。そのとき図書館が即座にその本を貸出できるならば理想的である。また学生の中には、たまたま図書館の書架の間を歩いて、或いは書名か著者名か、或いは装幀かその他にひきつけられて手にして読んだ本によって、精神の覚醒がおこるものもあるかもしれない。それ故、私たちは重要な本を多く所蔵する充実した図書館をつくっていかねばならない。

ところで、私たちは、大学図書館・専門図書館などのほかに、「自分の図書館」をもっているのではなからうか。繰り返し読んできた本、傍線や書き込みなどをして読んできた本、読むたびに新たな刺激をうけてきた本、売り払うことはもちろん、人に貸すのもめらわれるような本、こういう本は誰でももっていると思う。それらの総体が、たとえ数は少なくとも、私のいう「自分の図書館」なのである。ひとは一方で、このような「自分の図書館」によって自分の感度とでもいうべきものを保ってきているのではなからうか。他方、充実した図書館は高い感度を保つ人びとによってつくりあげられると思う。

といかんミニレクチャー〈第27回〉

薬草園の四季

薬学部 薬学科教授 **中西 勤**
 ” 助手 **邑田 裕子**



中西教授（左）と邑田助手

本学の薬用植物園は1983年の薬学部開設と同時に設置され温室、標本見本園、樹木園、標本室などに分かれている。樹木園は竹林を切り開いて整備したものである。その時以来植栽した樹木も現在は相当大きくなり、キハダ、トチュウ、ウメ、テンダイウヤク、ホオノキ、カリンなど花や果実をつけるようになり、だんだん樹木園としての体裁を整えつつある。現在では日本薬局方収載の生薬、漢方処方用薬、民間薬などの基原となる植物や染料、繊維、油料などの有用植物など約600種類を植栽している。薬用植物は、食用、染料、観賞花卉など薬用以外の目的で使われているものと同一種のものも多く、又身近でなにげなく見聞き、いわゆる雑草と思われるものも多い。従って名前を聞いたり、実物を見たりすると馴染みのあるものも随分多いのではないかと思われる。

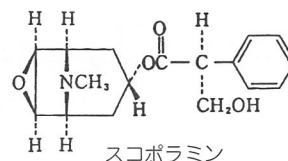
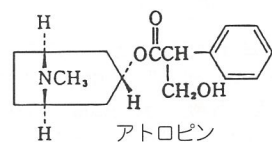
薬用植物園に植栽されている植物のうちから、季節毎にいくつかの植物を紹介しよう。

冬 正月の生け花や飾りとして使うナンテンは全ての部分が薬用となるが、特にその果実が白も赤も南天実といい咳止めの良薬とされる。正月頃に花が咲き良い香りのするロウバイの花蕾は臘梅といいアレルギーなどに使う。冬の果実の代表ウンシュウミカンはその皮を陳皮といい芳香性健胃薬で、漢方処方でも香蘇散などに配合されている。正月に御飾りに使うダイダイは橙色の果皮を橙皮といい陳皮と同様に芳香性健胃薬として家庭薬に配合される。またダイダイやナツミカン、ウンシュウミカンなどの夏期の若い未熟果実を枳実といい四逆散、大柴胡湯などの漢方処方に配合さ

れる。

春 サクラ、モモ、アンズ、アーモンド、レンギョウ、モクレン、コブシ、タイム等は春に花をつける薬木である。春から初夏に美しい花をつけるものにボタンとシャクヤクがある。ボタンの根皮は牡丹皮と称され瘀血の作用があり桂枝茯苓丸、加味逍遙散、大黃牡丹皮湯など婦人病薬とみなされる処方に配合される。シャクヤクの根（芍薬）は鎮痛、鎮痙などの作用があり桂枝茯苓丸、当帰芍薬散などの婦人病薬とみなされる処方や、鎮痛などの目的で芍薬甘草湯、葛根湯などの処方に配合される。

夏 ボタン、シャクヤクは美人の形容詞として使われる言葉であるが、もう一つの形容詞ユリもその鱗茎即ちゆり根が百合と言う生薬で夏に咲くオニユリ、ヤマユリなどの種類が用いられ、辛夷清肺湯などの処方に配合される。初夏から夏に咲くベニバナ、ムラサキなどは染料として有名であるが、それぞれ紅花、紫根として薬用とする。カンゾウ、エビスグサ、ハブソウ、トウキ、ハトムギ、ウコン、アサガオなども夏に花が咲く重要な薬草である。また夏に花が咲き果実ができるチョウセンアサガオ、ヨウシュチョウセンアサガオなどのチョウセンアサガオ属植物はペラドンナ、ハシリドコロ、ヒヨスなどとともにナス科の植物である。これらのナス科植物の全草にはアトロピン（植物体中ではL-ヒヨスチアミン）、スコポラミンなど鎮痛、鎮痙、散瞳作用のある成分を含んでいる。チョウセンアサガオ属の種子を曼陀羅華と称し、古くは華岡青洲が曼陀羅華を含む麻醉薬『通仙散』を創り、これを用いて1804年世界で始めて



ヨウシュチョウセンアサガオとその成分（アトロピンとスコポラミン）の構造式

全身麻酔による乳癌手術を行ったことで有名である。最近サリン中毒の解毒薬として、散瞳作用のある硫酸アトロピン（アトロピンの硫酸塩）がPAMと共に用いられたことも記憶に新しい。スコポラミンからもブスコパン等の薬が創られ、汎用されている。このように、これらナス科植物はアトロピンやスコポラミン等の重要な薬効成分を含む薬草であるが、一方では毒草でもある。これらナス科植物が毒草であったことから同じナス科のジャガイモがヨーロッパで最初は食物としてなかなか人々に受け入れられなかった歴史もある。先日の新聞にも、最近話題の食物モロヘイヤと間違えてチョウセンアサガオの葉を油いためして食べた夫婦が重体になったという話とともに、同様の事件が去年は3件もあって注意を要するということが載っていた。初めこの記事を読んだ時はまさかと思ったが、植物を良く知らない人にとってはそういうこともありうるのだろう。この事件のチョウセンアサガオ属の植物は、近畿地方では雑草と化しており、モロヘイヤと間違えないにしても、いたずらに扱って事故がおきないようにかねてから学生達には注意している。

秋 秋の気配を感じるようになると秋の七草のクズ、オミナエシ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマなどが咲き始める。これらは皆重要な薬草であり、クズの根は葛根と称し風邪の初期に用いる葛根湯の主剤である。その他秋に咲くセンブリ、リンドウ、トリカブト、ゲンノショウコなども有

名な薬草である。リンドウは竜胆^{リゅうたん}、トリカブト類は烏頭^{くず}や附子と称し、いずれも重要な漢方用薬である。トリカブト類は花が美しく、生花にも用いられるが、チョウセンアサガオ属の植物と同様、身近にある有毒植物の代表である。センブリやゲンノショウコは日本の民間薬として発展したものであるが、現在はその薬効も証明され、センブリは苦味健胃薬、ゲンノショウコは下痢止めなどとして広く使用されている。さらに寒くなるとサフランが咲き出す。サフランはクロッカスに似ているが、秋咲きである。花は薄紫で橙赤色のめしべの先が長くのび三つに分かれていて、このめしべの先を薬や食用にする。水に入れると橙黄色の色素がとけ出すが、紀元前からエジプトやギリシアなどで汎用され、クレオパトラもこの色を好んだという。現在のヨーロッパでも、料理にブイヤベース、パエリヤなどの着色料、香料として使い、体を温め、気分を高揚させるとしてサフランティーやサフラン酒として飲用される。薬としては鎮痛、鎮痙、通経薬などとして使われる。1g数千円はする高価なものであるが、1gとるのに200個ぐらゐの花が必要とあれば、それもうなずける。

温室には、カカオ脂（坐薬基剤）がとれるカカオ、有名な香料であるバニラ、樹皮を桂皮^{けいひ}（桂枝）といい、重要な漢方用薬で、ハッ橋などの菓子や飴などにも使われるシナニッケイ、消化酵素が取れるパパイヤなど多くの熱帯植物を栽培している。

資料紹介

今年は映画誕生から100年。本館でも、これを記念して企画された”Classic Film Collection”(全60巻)を購入しました。そこでこのコレクションについて、『映画の辞典』(合同出版)の執筆者の一人であり、「第3回タシセント国際映画祭」などにも招待されたことのある中川敬三氏に、その紹介をお願いしました。

名作ビデオ Classic Film Collection

(世界のクラシック名画シリーズ) に寄せて



なかがわ けいぞう
学生課長 中川 敬三

1895年12月28日、パリの「グラン・カフェ」でリュミエール兄弟の手により、世界ではじめて白い布のスクリーンに上映する有料映写会が開かれた。集まった紳士淑女は胆を潰さんばかりとなった。映画の誕生をあらわす有名なシーンである。

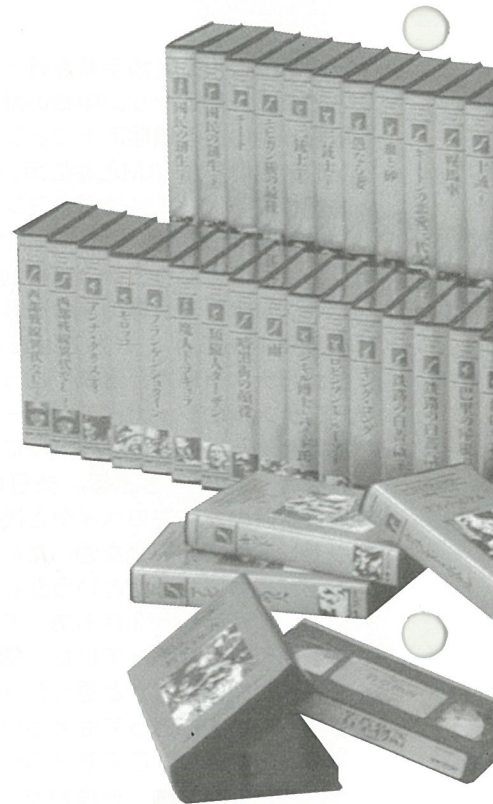
今年はそれから百年にあたる。

映画は百年前、科学技術の所産として産業を母胎として誕生し、そして営々としてその文化・芸術・(エンターテイメント)を成長させてきたのである。

世界はいま、映画界を始め各メディアで記念の企画、イベントが目白押しである。

さて、この“Classic Film Collection”(世界のクラシック名画シリーズ)も映画生誕100周年記念特別企画と銘打ってある。淀川長治さんが総監修となっている。1915年から1938年までの間に製作された51作品(ビデオカセット60本・字幕スーパー)が収められている。サイレントからトーキー初期の時代、映画の黎明期にあたる時代の名作、貴重な作品ばかりである。いわば、現代映画の様々なタイプの原点がここに見いだせるのである。

今では映画をビデオで見るのは一般化しているが、かつてフィルムしかなかった時代はこのコレクションにあるような(時代の)作品はなかなか見るチャンスがなかった。自主上映会や映画サークルなどでの上映を渉猟するしかなかったのである。私にとってコレクションのリストにある半数以



上の作品はこのように渉猟して見たものであり、懐かしさがこみ上げてくる。手元でこんなに簡単に見られるとは隔世の感がする。そういうわけで、みなさんには在学中にぜひ全巻見届けてほしいものである。初めに書いた映画の持つ総合性(科学技術、産業、文化・芸術・エンターテイメント)の巨大さを思い知ることであろう。

この辺りで、このリストにある作品の幾つかについて私なりに目を向けてみよう。

実はリストにある幾つかの作品を自主上映した経験がある。特に、プドフキンの『母』のそれは思い出深い…。『母』は、エイゼンシュテインの『戦艦ポチョムキン』とともに「革命から建設へ」の最中にあった若きソビエト映画界の両巨匠の、世界映画史上に生きるモンタージュ理論の代表作である。エイゼンシュテインの「衝突のモンタージュ」、プドフキンの「連鎖のモンタージュ」と微妙に異なる手法を比較することができるが、表現手法と思想伝達が見事に統一されている。

に統一されている。

アメリカ映画の父・グリフィスの『国民の創世』、『イントレランス』は、壮大な歴史スペクタクル映画である。今日の作品と比べても「超」のつく大作であり、やや難解であるが、映画という新しい見せ物に対する作者の創造的野心にあふれている。

映画百年の生き字引ともいえるチャップリンの『キッド』、『黄金狂時代』は、若き日の代表作である。チャップリン映画に通底するリアリズム、ヒューマンイズム、反骨精神、ペーソスがすでに花開いている。

リュイス・マイルストンの『西部戦線異状なし』は、レマルク原作の映画化で、第1次世界大戦を舞台にした、反戦映画の金字塔といえる作品である。人間一人ひとりの生命の対極にある戦争に反対するその訴えは深く、不滅である。

ロベルト・ヴィーネの『カリガリ博士』は、ドイツ表現主義映画の先駆的作品である。人間の狂気、幻想の世界を描いており、当時の不秩序と不安の時代状況を見事に表現している。フリッツ・ラングの『ドクトル・マブゼ』もドイツ表現主義の怪奇映画の傑作である。いずれもドイツ的な形而上の世界の一端に触れることができる。

以上、若干の作品を紹介したが、後はみなさんの鑑賞に任せよう。

なお、このコレクションの他に図書館には黒澤明のコレクションなどもあるので、利用したいものである。

写真提供：(株) ボルテックス

視聴覚室ビデオコレクション

黒澤 明監督作品リスト

姿三四郎 (1943)
 続 姿三四郎 (1945)
 一番美しく (1944)
 わが青春に悔なし (1946)
 素晴らしき日曜日 (1947)
 酔いどれ天使 (1948)
 野良犬 (1949)
 虎の尾を踏む男達 (1952)
 生きる (1952)
 七人の侍 (1954)
 生きものの記録 (1955)

蜘蛛巣城 (1957)
 どん底 (1957)
 隠し砦の三悪人 (1958)
 悪い奴ほどよく眠る (1960)
 用心棒 (1961)
 椿三十郎 (1962)
 天国と地獄 (1963)
 赤ひげ (1965)
 どですかでん (1970)
 影武者 (1979)

(数字は封切年)

北方交通大学図書館

国際言語文化学部教授 ^{たけよし}武吉 ^{じろう}次郎



海外研修の引率で中国・北京市の北方交通大学に滞在中、同大学の図書館を訪ね、石峻農館長から紹介を受ける機会を得た。

1909年創立の北方交通大学は鉄道関係の最高学府で、学生8000人（大学院生を含む）、教員1300人を擁する。中国の大学生は原則として全員が寮生活することになっており、広大なキャンパスには教育関連施設のほか、教職員住宅、学生宿舎および食堂等の生活施設が点在している。

私が一昨年に訪問したときは建築中だった図書館は、昨年春に落成していた。7つの八角形を組み合わせたユニークなデザインで受賞したのだそうだが、石館長によると使い勝手はイマイチらしい。7階建、床面積 12000㎡。蔵書は現在87万冊だが 120万冊まで収納でき、2000年には実現したいとのこと。雑誌は国内2400点、海外600点。石館長は「海外の雑誌だけで3000点欲しいのだが、予算の都合で……」と残念そう。だが蔵書も雑誌も、交通運輸関連にすれば全国トップを誇る。

石館長のいちばんのご自慢は、稀覯本以外すべて開架式になっていること。「外国はいざ知らず中国の図書館では画期的な方式

を、新築を契機に実現させた」のだそう。360㎡のホールが22あり、入館者は書架から本を自由に取り出せる。

中国の大学関係者が日本の大学図書館を見て驚くことは2つあって、ひとつは図書管理のコンピューター化、もうひとつは学生数に比べ椅子が少ないことという。北方交通大学の閲覧用の座席数は1500。これでも時期によっては早朝から「席取り合戦」になる由。ちなみに開館時間は8:00～12:00、14:00～17:30、18:30～22:00で、昼間は月曜から土曜まで、夜間は月曜から金曜までと日曜日に開いている。食事の時間帯には閉まるというのが、いかにも中国らしい（中国の大学図書館はどこも同様である）。

夏休みで大半の学生が帰省していたが、それでも貸出・返却カウンターには行列ができていた。係員が利用者証（バーコード付き）と本のバーコードをライトペンでなぞれば手続き完了とのこと。一回の貸出冊数は、学生が5～7冊、院生と教員が10～15冊、期間は種類により15日から60日まで分かれている。コピー、マイクロフィルム復元、テープのダビング等のサービスもある（有料）。ただ録音テープとビデオの備え付けはまだあまり多くないようだった。

貸出・返却システムにつづき、検索システムも近くコンピューター化されるらしい。ここでは富士通のコンピューターが使われている。また96年には北京市内の主要大学の図書館がオンラインで結ばれるほか、全国鉄道部門の大学・専門学校11校の図書館のネットワークも構築されるとのことである。

礼を述べて門を出ると左手に、藤田総長・理事長が昨年5月に同大学を訪問された際の記念植樹——ヒマラヤ杉が「友誼樹」と名づけられ育っていた。



ユニークなデザインの北方交通大学図書館

利 用 者 の 声

私は、もともと大の本好きで、分野を問わず、いろいろ興味を持つと、すぐにそのことが知りたくなります。そんな時に図書館は、私のこの欲求を満たしてくれます。

図書館には希望図書購入制度があって、カウンターに申し込めば、本屋で見つけた本の購入を希望

することができます。

初めは、本を購入

してもらっても1

回しか読まないの

に、大変悪いことをしているなと思っていましたが、今では、私が購入してもらった本を、他の人にも興味を持って読んでもらえたら大変うれしいと思っています。

図書館では、本を読むだけではなく、視聴覚室でCDやカセットを聴いたり、ビデオを視たりできます。高校にはそんな施設がなかったので、初めはとても驚きました。私は視聴覚資料を英語の勉強をするのに、おおいに利用しました。

3階の閲覧室には、テストの準備や、授業の合間の暇潰しにと、よく行きました。ここも図書館の他の

場所と同じく冷暖房が完備されていて快適です。

このように、私は図書館を利用してきました。図書館

の人達に、わからない時質問すれば、丁寧に教えてくれるのも、私が図書館を利用する理由の一つです。

皆さんも、本屋さんに行く前に、まず図書館に寄ってみると、探している本だけではなく、それ以上の良い本が見付かるかもしれないので、ぜひ図書館を利用してください。



私の図書館利用法

工学部 電気工学科4年

かわきた しろう
川北 史朗

「図書館利用者の声」ですか。そうですね。私にとって、図書館という存在は「常にあるほしいもの」という感じです。授業の合間や少し休憩したい時、世の中の動きや映画やタレントの情報を知りたい時、わざわざ本屋に行って生活費を削ってまで買わなくても、いろんな雑誌が、いろんな事が手に入ってしまう。全く、これでいいのだろうかというくらい素晴らしいことじゃないですか。

そして最近、何が私を感動させるかというと、枚方学舎では、閲覧室が夜の10時まで開室しているということです。元談話室だったその閲覧室は、試験前になると朝から席の奪い合いが始まってしまうほど勉強するのに居心地のいい場所なのですが、私はあまりその閲覧室の利用を皆には薦めません。なぜなら、私が利用したいからで

す。しかし、やっぱり私は、開館時間の間は図書館の方が好きです。アーチ型の窓際に座り、おもむろに本を開く。本にかかる陽光につられて窓から流れ行く雲を見付ける。そして、再び私の目は文字をなぞる。いいじゃないですか。ただ、試験前やレポート提出がある時は、一変して普段の穏やかな印象はなく、図書館内はヒドクごったがえします。人は多いし本はない。つまりは、直前にバタバタせずに常に図書館を利用して勉強をしようということでしょうか。

まあこういうわけで、私にとって図書館は、勉学の面でも憩いの面でも「常にあるほしいもの」なのです。



常にあるほしいもの

薬学部 薬学科3年

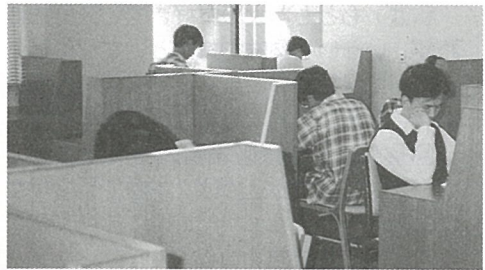
なんべい さちえ
南平 幸衛

ある時は、一変して普段の穏やかな印象はなく、図書館内はヒドクごったがえします。人は多いし本はない。つまりは、直前にバタバタせずに常に図書館を利用して勉強をしようということでしょうか。

まあこういうわけで、私にとって図書館は、勉学の面でも憩いの面でも「常にあるほしいもの」なのです。

閲覧室（本館）の開室時間を 午後 10 時まで延長

本館閲覧室は今年 4 月に、開室時間を 2 時間延長し、午後 9 時までとしましたが、連日閉室まで多くの利用があり、5 月に行った「夜間の閲覧室に関するアンケート」でも、午後 9 時以降も開けてほしいとの声が多かったため、9 月 4 日から第 4 閲覧室の開室時間を 1 時間延長し、午後 10 時までとし、学習環境の改善を図りました。



多くの利用がある第4閲覧室

新聞記事・ビジネス情報等をキーワード検索できる

「日経ニューステレコン」を導入！

図書館（本館）では、日本経済新聞社が提供している「日経ニュース・テレコン」に加入、7 月 7 日からサービスを行っています。「日経ニュース・テレコン」は、日経のデータベース「日経テレコン」の全 11 種の情報パッケージ群の一つで、各新聞・辞典類の記事検索、企業の財務・人事等のビジネス情報のほか、科学技術や経済情報など多様なメニューが用意されています。

とくに邦文記事検索のメニューは、内容が充実しており、日経 4 紙のほか、朝日・毎日、

読売・産経の 4 大紙、西日本新聞など地方紙の記事も収録されています。収録開始日は、各新聞によって異なっており、例えば日経 4 紙は 1975 年以降、朝日新聞は 1985 年以降の記事が収録されています。

利用申込の受付は、図書館参考図書室カウンター（5 F）で行っており、実際の検索は、担当者が代行します。費用はメニューにより異なりますが、標準料金で接続時間 1 分につき 40 円です。

レポート作成等に大いに利用してください。

「中國時報」「ASIaweek」

「Berita Harian」を新規購入

図書館（本館）では今年度から、台湾の一般紙「中國時報（CHINA TIMES）」、シンガポールの一般紙「Berita Harian」および香港の雑誌「ASIaweek」を購入し、5 階参考図書室に配架しています。

現在購入している外国の新聞には、この

外、The New York Times（アメリカ）、Uno Más Uno（メキシコ）、KOMPAS（インドネシア）、東亜日報（韓国）などがあります。語学学習や情報収集などに大いに役立ててください。

編集後記

・今年はフランスのリュミエール兄弟による映画生誕から 100 年。

映画への関心がますます高まっているようです。今号では、視聴覚室の名作ビデオコレクションを紹介しましたが、この 100 年の映画史やチャップリン、クロサワといった映画史に残る偉大な映像作家についての図書資料は普通図書室にありますので、ぜひご利用ください。

・今号にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

摂南大学図書館報「学而」No.43 1995.10

編集・発行 摂南大学図書館

本館 〒572

大阪府寝屋川市池田中町 17-8 TEL. (0720) 39-9112

枚方分館

〒573-01

大阪府枚方市長尾峠町 45-1

TEL. (0720) 66-3102

印刷 (株)関西廣済堂

〒560

大阪府豊中市蛍池西町 2-2-1

TEL. (06) 855-1100